

衛星画像を用いた鳥類の生息状況調査（補足資料）

1. 調査内容

本調査は、令和2年度衛星画像を用いた鳥類の生息状況調査手法検討業務において、尖閣諸島の北小島及び南小島のアホウドリの生息状況調査を行った際、撮影適期に入手した衛星画像の雲量が多く生息状況が確認できなかった北小島について、補足的に調査を実施したものである。

2. 調査結果

本調査において入手した衛星画像（2022年11月29日）によると、尖閣諸島の北小島においては、明確にアホウドリとしてカウントできる個体は確認できなかったものの、過去の専門家による調査においてもごく少数の生息が確認されたのみであったことから、生息状況に大きな変化は見られないと推測される。

3. まとめ

令和2年度に調査を実施した尖閣諸島の南小島においては、撮影された衛星画像（2020年11月27日）から推定したアホウドリのつがい数は110～140組程度であり、過去の専門家による調査結果に比べて増加している可能性があることが明らかになっている（「令和2年度衛星画像を用いた鳥類の生息状況調査手法検討業務（最終報告）」参照）。

以上により、尖閣諸島全体として、アホウドリの生息数が増加している可能性が明らかになった。

（参考）2002年の専門家の現地調査では、南小島ではアホウドリ成鳥・若鳥が計77個体、雛が計32個体確認されており、つがい数でいうと50組程度と推定されている。また、北小島では若鳥が4個体、雛が1個体確認されている（長谷川, 2020）。

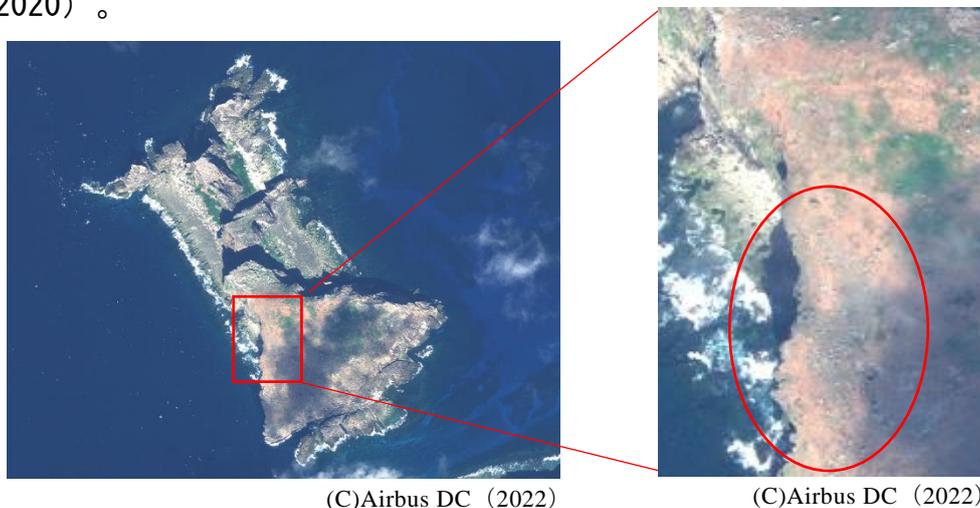


図 尖閣諸島北小島(2022年11月29日撮影、○内が過去の調査でアホウドリの生息が確認された範囲)